

講座案内の見方

- 1 資料問題から日本史を考える 近現代編 ー共通テストに向けてー
- 2 大阪
- 1 講座名
- 2 ライブ会場名・映像コンテンツ
- 3 講師名 4 科目 5 講座案内
- 6 講座ラインナップ
- 7 指導対象
- 8 講座レベル(■の部分が該当レベルです。)

※色文字…(青)過去に実施した講座との重複情報

資料問題から日本史を考える 近現代編 ー共通テストに向けてー

大阪

鈴木 和裕 日本史

共通テスト

国公立大・私立大・共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

この講座は資料問題から日本史の理解を深め、授業の参考をすることを目的とします。2021年度入試から「大学入学共通テスト」が始まります。実施された試行調査を見ると、センター試験とは変わり、複数組み合わせた資料を読み解き、思考する問題が中心となっています。これらの問題に対処するため、授業やテストのなかで資料を使用することが必要になると思われますが、その素材はどのように探せばよいのでしょうか。そのヒントは大学入試で出題された問題にあります。そこで今回は近現代の政治・外交・社会経済を中心に、国公立大個別試験や私立大で出題された資料に関する論述問題を利用し、授業やテストでの使用方法について考えます。授業で使用する素材を考える参考になる講座にしたいと考えています。

論述問題から学ぶ日本史 ー近代の文化編ー

大阪

鈴木 和裕 日本史

オリジナル

国公立大・私立大・共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

この講座は国公立大個別試験の論述問題を通じて日本史の理解を深め、授業で日本史を整理する上での切り口を学ぼうとするものです。自分自身の経験ですが、予備校で日本史の論述講座を担当するようになり、通史の授業内容は明らかに進化しました。論述問題と格闘することで日本史の理解が深まり、授業内容を構成する上で幅が広がったのです。これは論述の授業のみならず、共通テスト・私立大クラスの授業・問題分析にも生かされています。今回は主に、思想・教育など近代の文化について論述問題から考えてみたいと思います。論述指導に関わってなくても、日本史の理解を深め、授業の幅を広げたいという先生はぜひ参加してください。

『日本史の論点』を活用して問いを立てる ー近現代外交編ー

映像

京都

塚原 哲也 日本史

新課程

国公立大・私立大								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

2022年度から新科目『日本史探究』が始まります。この科目では、生徒が「問い」を表現し、資料をもとに仮説を立てながら学習を進めることが謳われています。この学習を進めるのは生徒です。しかし、教員が「問い」を立てることができなくて生徒を指導できるでしょうか。また、問い(課題意識)のないところで資料を探ることができでしょうか。そこで、この講座では『日本史の論点ー論述力を鍛えるトピック60ー』(駿台文庫)を素材としながら、問いを立てる手がかりを探っていきたいと考えています。シリーズ第2回は近現代の外交がテーマです。『日本史の論点』から、いくつかのトピック(論点)を抜粋して扱います。

貨幣・金融史をどう教えるか ー金本位制を中心にー

映像

塚原 哲也 日本史

オリジナル

国公立大・私立大・共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

貨幣・金融史をどのように理解し、どのように教えるのかを検討していきたいと考えていますが、古代から現代まで全ての時期を50分×6コマのなかで扱うことはできません。そこで、近世・近代を主な対象として設定し、なかでも金本位制に焦点をあててみたいと思います。
 ※2020年3月に実施した春期の同名講座と同じ内容です。また、過去の「日本史の研究ー貨幣・金融史をどう教えるか(金本位制を中心に)ー」とほぼ同じ内容です。

2020年度の入試問題研究(日本史論述)

東京・京都

塚原 哲也 日本史

オリジナル

国公立大								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

2020年度の東京大・京都大・一橋大などで出題された論述問題をセレクトして扱います。論述問題を解く際、設問の要求に即して知識を取捨選択しなければなりません。また、資料(史料)が示されている場合、自分の知識を単純に投影するのではなく、資料(史料)に即して議論を組み立てることが必要です。なぜそのようなアプローチをとるのか、明確な判断を持っていなければ、生徒に対して解法を伝えることはできませんし、主体的な学びを喚起することもできません。この講座では、問題をいかに解くか、生徒をどのような学びに導いていくかについて考えていきます。

経済史・社会史から見る中国前近代 ー隋・唐～清ー

映像

鶴岡 恵太 世界史

オリジナル

国公立大・私立大・共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

政治史に偏ると単調になりがちな中国史を、経済・社会の側面から捉えなおすことで、隋・唐から清(乾隆年間)までを有機的につなげる試みです。中国内部の開発や産業発展と交易を、遊牧国家や海上勢力の盛衰、モンゴル時代の世界の一体化、明・清代の海禁政策などの観点から考察します。近年、教科書での記述も増えてきた経済史・社会史を、実際に国公立大(東京大・一橋大)や私立大(早稲田大・慶應義塾大)で出題された入試問題も織り交ぜてお話しいたします。先生方には中国史の授業にメリハリをつける際の参考にしていただければ幸いです。入試世界史のレベルの範囲内で、より多角的な授業を展開する方策の手がかりを、先生方と考察できればと考えております。
 ※過去の同名講座と同じ内容です。

世界史B「共通テスト」への展望 ー試行調査の分析と課題ー

東京

佐藤 哲 世界史

共通テスト

共通テスト								
8:50～12:40								
受講料14,850円(税込) [4コマ]								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

最後のセンター試験がおこなわれ、共通テスト実施まで1年を切りました。共通テストでは「歴史用語に関する知識ではなく、事象の意味や意義、特色や相互の関連についての理解を求める出題がおこなって、多面的・多角的な考察力を求める」出題がされます。共通テストについては、すでに2回に渡って試行調査が実施され(2017年11月、2018年11月)、暗記だけでは対応できないその方向性の一端を探ることが出来ます。試行調査の内容を検討し、2020年1月に実施された最後のセンター試験も踏まえて、共通テストとセンター試験との連続性、そして共通テストに向けての課題を考えていきたいと思ひます。
 ※2020年3月に大阪で、4月に東京で休講になった講座です。過去の同名講座と重複する部分が多くなりますが、2020年度入試センター試験を踏まえた内容となります。

史料・資料からアプローチする世界史論述対策

映像

渡辺 幹雄 世界史

オリジナル

国公立大・私立大								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

近年の東京大・一橋大・東京外語大などの難関国立大や慶應義塾大などの難関私立大、あるいは上智大などの私立大TEAP入試では、史料や統計・図版などの資料を用いるタイプの論述問題が出題されています。高校の授業は教科書の内容の「説明」に偏りがちですが、史料を分析・確認してその意義を問うという歴史学の基本的な取り組みを、大学側が高校の教育現場に求め始めたと考えられます。これは「共通テスト」や「歴史総合」にも通じる姿勢と言えます。教科書で学ぶ政治史や社会経済史上の変化がどのように史料や資料に現れ、それをどのように理解すれば、教科書の記述に辿り着くのか、いわば世界史に対する受験生の「思考力」と「表現力」が問われようとしています。この講座では、史料・資料を用いた前述の難関大論述問題に取り組みながら、受験生の「思考力」と「表現力」を高める現場での学習法について、先生方共々、考察したいと思ひます。
 ※2019年度冬期の同名講座と同じ内容です。

共通テスト地理B対策

東京

阿部 恵伯 地理

共通テスト

共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

2回の試行調査では、これまで以上に資料分析力が要求されました。これは、読解力向上プログラムの延長線上の発問形式であったといえます。文部科学省の「読解力」はPISAの「読解力」を意識しております。そのPISAの「読解力」とは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されており、資料の読み取りを意識させています。地理で出題される地図や統計などの資料読み取りに他なりません。そこで、2回分の試行調査問題を中心に、センター試験の類似問題も比較しながら、共通テスト対策を考えてみたいと思ひます。
 ※2020年4月に休講になった講座で、2019年度冬期の同名講座と同じ内容ですが、2020年度入試センター試験を踏まえた内容になります。

教え方のノウハウ【地理】教科書から難関大入試へ ー必修「地理総合」の効果的指導法ー

映像

宇野 仙 地理

ノウハウ

新課程

国公立大・私立大・共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

いよいよ2022年度から始まる「地理総合」の必修化まで残り時間が少なくなってきました。地理が必修になることは大変喜ばしいことですが、一方で地理への関心が薄い生徒の興味をひこうとするあまり、ICTに頼りすぎた中身の薄い授業になってしまったり、時事問題や雑談に走りすぎてしまったりして、体系だった「地理」の指導ができなくなることが危惧されます。こうして「地理総合」の必修化が形骸化していかないために、本講座では「地理総合」の中心となる「防災地理」と「SDGsに基づいたESD(持続可能な開発のための教育)」に焦点を絞って、受験対策にもつながる自然地理の教授法や雑談の学問への昇華法を、入試問題の具体例をまじえてお伝えしていきます。
 ※2018年度冬期、2019年度夏期に実施した初任者セミナーのダイジェスト版です。

共通テストに備えた地理Bの指導 ー自然環境分野ー

大阪

高崎 弥昌 地理

共通テスト

共通テスト								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

地理を学習していく上で、様々な分野の基礎となる「地形」「気候・土壌・植生」を中心に取り上げます。普段の授業を再現しながら、効果的な教授法や問題演習への取り組み方について、先生方と一緒に探究したいと思ひます。特に共通テストでは、これまで以上に、自然環境のメカニズムへの理解が問われる問題が増えていきます。生徒が安易な暗記に逃げたり、誤解したまま覚えてしまうことを防ぎ、正攻法で理解させるにはどうすればよいか、を考察する機会になれば幸いです。

倫理・政経「共通テスト」に向けて

東京

村中 かずゆき 倫理

吉田 和真 政経

共通テスト								
倫理8:50～12:40、政経13:40～17:30								
受講料 27,500円(税込) [8コマ]								
基礎	標準	難関						
1	2	3	4	5	6	7	8	9

2021年度入試から導入される「大学入学共通テスト」に向けて、2018年11月におこなわれた試行調査の問題を分析し、対策を考えます。思考力を問うというのが共通テストの狙いの一つです。「倫理」と「政治・経済」の試行調査にもその意図ははっきりと表れており、センター試験とは形式、内容が大きく異なっています。各設問で正解するうえでのポイント、要求されている学力、備えておくべき知識レベルなどを、センター試験と比較しながら精査したうえで、受験対策としてどのような指導をすればいいのか、先生方と一緒に考えたいと思ひます。
 ※この講座は倫理のみ、あるいは政経のみでも受講いただけます。その場合、受講料はそれぞれ14,850円(税込)です。
 ※質疑応答は倫理は12:40より、政経は17:30よりおこないます。
 ※2020年3月に東京で実施、4月に大阪で休講になった講座で、過去の同名講座と同じ内容です。